

都市再生整備計画 事後評価方法書

犬山駅周辺地区

令和 5 年 9 月

愛知県 犬山市

目次

(1) 成果の評価.....	2
1) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況.....	2
2) その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測.....	6
(2) 実施過程の評価.....	6
1) モニタリングの実施状況の確認.....	6
2) 官民連携による取組の実施状況の確認.....	6
3) 持続的なまちづくり体制の構築状況の確認.....	6
(3) 効果発現要因の整理.....	7
(4) 今後のまちづくり方策の作成.....	7
(5) 事後評価原案等の公表.....	7
(6) 評価委員会の審議.....	7
(7) その他の機会における有識者からの意見聴取の予定.....	7
(8) 事後評価に必要な経費に関わる予算措置の状況.....	7

(1) 成果の評価**1) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況****指標 1 : 交流施設の利用率****A : 事前評価時の『従前値』の求め方**

①従前値の基準時点	平成 29 年度
②実施主体	都市計画課
③計測手法	・ 犬山国際観光センター内の施設のうち、貸館として市民が利用可能な会議室やホール等（午前、午後、夜間の 3 区分で貸出）の利用実績より、平成 29 年度の貸館全体の稼働率を算出した。

B : 事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方

④計測時期	令和 5 年 7 月（令和 4 年度利用実績確定）				
⑤実施主体	都市計画課				
⑥データの計測手法	・ 犬山市民交流センター「フロイデ」（旧犬山国際観光センター）内の施設のうち、貸館として市民が利用可能な会議室やホール等（午前、午後、夜間の 3 区分で貸出）の利用実績より、令和 4 年度の貸館全体の稼働率を算出する。 ・ 「フロイデ」の指定管理者より毎年 7 月頃、施設所管課に前年度の貸館利用実績データの報告がある。				
⑦評価値の求め方	・ 犬山国際観光センターは、平成 31 年度に本計画による再整備（施設内の観光協会・国際交流協会の再配置、福祉会館廃止に伴う社会福祉協議会、適応指導教室の移転）が完了し、令和 2 年 4 月より、犬山市民交流センター「フロイデ」としてリニューアルオープンした。 ・ 目標値の評価基準日は【令和 5 年度（令和 6 年 3 月 31 日）】であり、現時点では目標値の算出に必要なデータが計測できない。 ・ このため、令和 4 年度の利用実績を見込み値として評価し、令和 5 年度の利用実績を確定値とする。				
⑧確定／見込みの別	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>確 定</td> </tr> <tr> <td>●</td> <td>見 込 み</td> </tr> </table>		確 定	●	見 込 み
	確 定				
●	見 込 み				

C : フォローアップ時の『確定値』の求め方

⑨フォローアップの必要性	<table border="1"> <tr> <td>●</td> <td>あ り</td> </tr> <tr> <td></td> <td>な し</td> </tr> </table>	●	あ り		な し
●	あ り				
	な し				
⑩計測時期	令和 6 年 7 月頃（令和 5 年度利用実績確定予定）				
⑪実施主体	都市計画課				
⑫計測手法	・ 令和 6 年 7 月に確定予定となる令和 5 年度の貸館全体の稼働率より確定値を計測する。				

指標 2 :	市民活動参加意向	
A : 事前評価時の『従前値』の求め方		
①従前値の 基準時点	平成 30 年 11 月	
②実施主体	都市計画課	
③計測手法	<p>・「犬山城下町地区 都市再生整備計画事業の実施評価に関するアンケート調査」における「市の政策やまちづくり・地域づくりに参加したいと思いますか」の質問に対して、「積極的に参加したい」及び「できることがあれば参加したい」と回答した人の割合 (%) を、「概ね 5 年前に比べて、まちづくり・地域づくりへの参加の意欲は高くなっていますか」の回答より算出した 5 年間の市民活動参加意向の上昇率を加味し、推計値を算出した。</p>	
B : 事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方		
④計測時期	令和 5 年 11 月	
⑤実施主体	都市計画課	
⑥データの 計測手法	<p>・「犬山駅周辺地区 都市再生整備計画事業の実施評価に関するアンケート調査」における「市の政策やまちづくり・地域づくりに参加したいと思いますか」の質問に対して、「積極的に参加したい」及び「できることがあれば参加したい」と回答した人の割合 (%) を計測する。</p>	
⑦評価値の 求め方	<p>・市民活動の交流拠点となる犬山市民交流センター「フロイデ」のリニューアルが令和 2 年 4 月に完了しており、令和 5 年 11 月のアンケート調査段階で、本事業の整備効果が評価可能である。</p> <p>・このため、令和 5 年 11 月のアンケート調査結果から得られる計測値を確定値とする。</p>	
⑧確定／見 込みの別	●	確定
		見込み
C : フォローアップ時の『確定値』の求め方		
⑨フォローアップ の必要性		あり
	●	なし
⑩計測時期	-	
⑪実施主体	-	
⑫計測手法	-	

指標 3 :		観光客の城下町への再来訪意向	
A : 事前評価時の『従前値』の求め方			
①従前値の 基準時点	平成 30 年 10 月		
②実施主体	都市計画課		
③計測手法	・ 城下町来訪者に対して実施したアンケート調査における「犬山城下町に再来訪したい と思いますか」の質問に対して「はい」へのアンケート調査に基づく再来訪意向の割 合と回答した人の割合 (%) を計測した。		
B : 事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方			
④計測時期	令和 5 年 11 月		
⑤実施主体	都市計画課		
⑥データの 計測手法	・ 城下町来訪者に対して実施したアンケート調査における「犬山城下町に再来訪したい と思いますか」の質問に対して「はい」へのアンケート調査に基づく再来訪意向の割 合と回答した人の割合 (%) を計測する。		
⑦評価値の 求め方	・ 城下町地区の修景整備等により観光客の来訪回数の増加に寄与する街なみ環境整備事 業は、令和 4 年度までに概ね完了していることから、令和 5 年 11 月のアンケート調 査段階で当該事業の整備効果が評価可能である。 ・ このため、令和 5 年 11 月のアンケート調査結果から得られる計測値を確定値とする。		
⑧確定／見 込みの別	●	確 定	
		見込み	
C : フォローアップ時の『確定値』の求め方			
⑨フォローアップ の必要性		あ り	
	●	な し	
⑩計測時期	-		
⑪実施主体	-		
⑫計測手法	-		

指標 4 :		犬山遊園駅の年間乗降客数	
A : 事前評価時の『従前値』の求め方			
①従前値の 基準時点	平成 30 年度		
②実施主体	都市計画課		
③計測手法	・平成 30 年度の年間利用者数（定期利用者を除く）を集計したデータを鉄道事業者より提供を受ける。		
B : 事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方			
④計測時期	令和 5 年 7 月（令和 4 年度集計データ確定予定）		
⑤実施主体	都市計画課		
⑥データの 計測手法	・令和 4 年度の年間利用者数（定期利用者を除く）を集計したデータを鉄道事業者より提供を受ける。		
⑦評価値の 求め方	・鉄道事業者による令和 5 年度の年間利用者数の集計データの確定が令和 6 年 7 月頃の予定となるため、現時点では目標値の算出に必要なデータが計測できない。 ・このため、令和 4 年度の年間利用者数を見込み値として評価し、令和 5 年度の年間利用者数を確定値とする。		
⑧確定／見 込みの別		確 定	
	●	見 込 み	
C : フォローアップ時の『確定値』の求め方			
⑨フォローアップ の必要性	●	あ り	
		な し	
⑩計測時期	令和 6 年 7 月（令和 5 年度集計データ確定予定）		
⑪実施主体	都市計画課		
⑫計測手法	・令和 6 年 7 月に確定予定となる令和 5 年度の年間乗降客（定期利用者を除く）より、確定値を計測する。		

(2) 実施過程の評価

1) モニタリングの実施状況の確認

A : 都市再生整備計画への記載状況および実施状況

- ア 都市再生整備計画に実施することを記載した
イ 都市再生整備計画に記載しなかった
ウ 都市再生整備計画に記載はないが実施した

B : 実施事項 (※Aで、アまたはウに該当する場合に記入、イの場合には「なし」と記入)

都市再生整備計画に実施することを記載したが、モニタリングを実施しなかった。

C : 事後評価時の確認方法

- ①時 期 ー
②確 認 先 ー
③確認方法 ー

2) 官民連携による取組の実施状況の確認

A : 都市再生整備計画への記載状況および実施状況

- ア 都市再生整備計画に実施することを記載した
イ 都市再生整備計画に記載しなかった
ウ 都市再生整備計画に記載はないが実施した

B : 実施事項 (※Aで、アまたはウに該当する場合に記入、イの場合には「なし」と記入)

令和4年度に、木曽川河畔の価値を再構築・創造し、住民・事業者・観光客それぞれに魅力のある空間へ整備することを目指したワークショップを計6回、実証実験を計4事業実施した。また、ワークショップ等で得られた意見や検討内容を反映した、木曽川河畔空間整備基本構想(案)を策定した。

C : 事後評価時の確認方法

- ①対 象 木曽川河畔歩行空間活用に関するワークショップ・実証実験
②時 期 令和5年10月
③確 認 先 経済環境部観光課
④確認方法 ワークショップ等の開催記録により住民参加プロセスの実施状況を確認する。

3) 持続的なまちづくり体制の構築状況の確認

A : 都市再生整備計画への記載状況および実施状況

- ア 都市再生整備計画に実施することを記載した
イ 都市再生整備計画に記載しなかった
ウ 都市再生整備計画に記載はないが実施した

B : 実施事項 (※Aで、アまたはウに該当する場合に記入、イの場合には「なし」と記入)

市民活動や地域活動などの公益的活動の支援・促進及び多様な主体の協働を推進する拠点として、犬山市民交流センター「フロイデ」内に犬山市協働プラザ「わんまる一む」を令和2年4月にオープンした。

C : 事後評価時の確認方法

- ①対 象 犬山市協働プラザ「わんまる一む」
②時 期 令和5年10月
③確 認 先 市民部地域協働課
④確認方法 協働プラザの利用状況等を確認する。

(3) 効果発現要因の整理

①時 期	令和5年12月
②実施主体	都市計画課（都市再生整備計画主幹課）
③検討体制	都市計画課が主体となり、事業に係わる全ての課による庁内の横断的な組織（ワーキンググループ）を設置し、検討会議を開催する。

(4) 今後のまちづくり方策の作成

①時 期	令和5年12月
②実施主体	都市計画課（都市再生整備計画主幹課）
③検討体制	上記のワーキンググループによる検討会議を設けて、ブレイン・ストーミングにより整理する。

(5) 事後評価原案等の公表

	原案の公表	評価結果(最終)の公表
①時 期	令和5年12月	令和6年2月
②実施主体	都市計画課	都市計画課
③公表方法	市広報誌により周知し、市役所・各出張所での閲覧及び市HPへの掲載により公表する。公表期間は2週間とする。	都市計画課での閲覧及び市HPへの掲載により公表する。

(6) 評価委員会の審議

①時 期	令和6年1月
②実施主体	都市計画課（都市再生整備計画主幹課）
③設置・運用方法	犬山市が設置する評価委員会で、まちづくりの観点から都市再生整備計画事業の事後評価を審議する。

(7) その他の機会における有識者からの意見聴取の予定

① 聴取方法	特になし
--------	------

※(3)～(6)の検討以外に市町村で任意に有識者から意見聴取を予定する場合に記入

(8) 事後評価に必要な経費に関わる予算措置の状況

①予算措置の状況	ア <input type="checkbox"/> 費用は発生しない イ <input checked="" type="checkbox"/> 費用は発生するが、予算措置を講じている ウ <input type="checkbox"/> 費用は発生するが、予算措置は講じていない エ <input type="checkbox"/> その他（ ）
----------	--

都道府県名	愛知県
市町村名	犬山市
地区名	犬山駅周辺地区
計画期間	平成 31 年度～令和 5 年度
作成者	部署 都市計画課
	役職 主事
	氏名 今枝 龍希
連絡先	T E L 0568-44-0330
	F A X 0568-44-0366
	E-mail 080100@city.inuyama.lg.jp